

令和4年度 学校評価アンケート集計結果について

山形県立米沢東高等学校 学校評価委員会

今年度のアンケートは、令和5年1月6日から1月13日まで実施した。アンケート対象者は、本校生徒全員とその保護者、教職員である。いずれもスマートフォン・パソコン等を利用しての入力とした。スマートフォン・パソコン等で入力できない人にはアンケート用紙に記入していただいた。保護者の回収方法は、令和3年度よりアンケート用紙からスマホ入力（本年度は連絡用ツール「さくら連絡網」を利用した Google フォームでの実施）へと変更されている。回収率は生徒91(79)%、保護者59(57)%、教職員76(77)%である（()はR3年度）。質問は昨年度の反省より教育目標（全体及び各年次）を添付し、文言を少し変えた程度で昨年の内容とほぼ同じとした。また、コロナ禍で来校する機会が減少し状況が見えにくくなっていることで、回答の選択肢について改善と工夫が必要であるとのこと意見を頂いている。

本校の教育課題と学校経営について、今年度のアンケート結果から考察してみる。

I. 本年度の学校経営（概況）

A) コロナ禍の影響について

- ・新型コロナウイルスへの対応に振り回された1年であった。家庭内感染が顕著となりやむを得ず出席停止となる生徒も多かった。
- ・学校行事については、制限開催等感染防止対策を充実させ、多くの行事が年度当初の計画に沿って実施できた。
- ・部活動では運動部・文化部ともに大会が開催され東北・全国大会出場等各種目で優秀な成績を収めた（県外遠征は抗原検査実施等の制約があった）。
- ・修学旅行では、出発前に参加者全員が抗原検査を実施し、快晴に恵まれ、予定通り関西方面へ3泊4日の研修を行った。帰県後体調不良者が見られ、集団感染により2クラスで学級閉鎖に至った。
- ・年間通して、予定通り授業時数は確保された。
- ・数多くの制限がある中で、何をすればいいのかを判断し実行する力がついた。
- ・昨年同様、各教科担当者の工夫、授業の効率化、オンラインの質問会の実施・ICT化、これまでにない取り組みもあり、授業の実践方法の幅が広がった。

B) 本校志願者を増やす工夫について（高校入学者選抜 R4 本校志願者 0.73倍）

- ・各中学校の1学期終業式を考慮し、オープンスクールを2日間実施し多くの中学生が参加できる体制を取った。
- ・「魅力化・ビジョン委員会」を設置し、「スクールミッション」「スクールポリシー」の構築に向け、教職員での研修会（ワークショップ形式）や先進校視察の報告等を生かし、米東生に身に付けさせたい「主体性」「人間性」「発信力」「生涯学習力」についての具体的な取り組みの検討を実施。

II. アンケートの数値分析

1. <学習指導>

- ① 質問内容は「家庭学習に主体的、計画的に取り組んでいるか」に対し、肯定的な意見(A+B)は(以下同様の集計)、下記が一番右の数値である。該当項目は、質問事項 8 (生徒・保護者)・11 (教職員) である。

生徒：66%(H30) → 68%(R01) → 72%(R02) → 74%(R03) → 70%(R04)

保護者：71%(H30) → 70%(R01) → 73%(R02) → 73%(R03) → 72%(R04)

教職員：88%(H30) → 86%(R01) → 97%(R02) → 97%(R03) → 92%(R04)

年次別に見ると1年次生63%(保護者72%)、2年次生61%(保護者62%)、3年次生87%(保護者80%)である。1年次生は、授業の予習復習・課題への取り組みは誠実であるが、さらに「主体的」な学習活動となるための基礎力の定着が期待される。2年次生は数年60%前後の推移となっており、文理の科目選択での興味関心を引き上げ、より「主体的」になる取り組みが期待される。3年次生では進路実現に向けて9割近くが計画的に取り組んでおり、受験生らしい数値となっている。

「課題の分量・内容は適切である」とする教員は92%である。ほとんどの生徒は期日を守り、課題を提出しており、生徒の頑張りが見られる。「課題」については、授業内容を定着させるには必要な学習量である。家庭学習に主体性がないと感じる3割の生徒を上手く導き、高校生活の限られた3年間で実力を身につけさせる必要性を感じる。

- ② 本校独自の取り組みの質問項目として、質問事項 7 (生徒)・13 (教職員)「i-See プロジェクトの意義を十分理解し、積極的に取り組んでいる」に対する回答では、生徒意識が高い数値を得た。

生徒：87%(H30) → 86%(R01) → 94%(R02) → 94%(R03) → 93%(R04)

教職員：64%(H30) → 74%(R01) → 81%(R02) → 88%(R03) → 95%(R04)

3年次の課題研究発表会(ポスターセッション)には外部有識者や保護者に参観して頂き、好評であった。年次別に見ると1年次生91%(92%(R03))、2年次生91%(94%(R03))、3年次生96%(94%(R03))であり、全体的に高い意識での取り組みが継続し、本年度は1年次生への取り組みもリニューアルしたことで、さらに充実し3年間を見通した深い探究活動が期待できる。大学等の入試の多様化に伴い、探究内容は面接やエントリーシートでも活用されている。教職員は専門分野を担当するとは限らず、指導方法の難しさを感じながらも、一人一台端末の活用で円滑に活動できるようになってきている。進路指導課では指導方法の講習、指導の手引きなど用意し、指導しやすい工夫をしている。キャリア講座「読む」～考えるための情報提供～の実践は様々な角度から生徒へ有益な情報を与えている。

2. <生活指導>

- ① 質問事項 3「学校に行くのが楽しい」の肯定的数値は、80%を超えよい数値が出ている。

生徒：79%(H30) → 78%(R01) → 85%(R02) → 84%(R03) → 83%(R04)

保護者：82%(H30) → 83%(R01) → 83%(R02) → 85%(R03) → 87%(R04)

生徒については数値がよくなり、8割超の生徒は毎日の生活に満足していると考えられる。年次別に見ると1年次生85%(保護者91%)、2年次生77%(保護者84%)、3年次生86%(保護者85%)である。ほとんどの生徒が充実した校内生活を送っていると捉えられる。コロナ禍で様々な制約があるものの、各種行事は生徒会執行部を中心に様々な工夫を凝らして

創造性を発揮しながら開催された。生徒会の企画力、生徒一人ひとりの行動力には目を見張るものがある。一方、「学校に行くのが楽しくない生徒」と「その子どもを心配している保護者」が各年次に約2割いることに留意し、生徒・保護者・教職員の相互の意思疎通を図り信頼関係を深めて指導に生かしていきたい。

② 質問事項 17 「悩みや不安を相談できる先生がいる」に関しては、

生徒：72%(H30) → 71%(R01) → 74%(R02) → 71%(R03) → 80%(R04)

保護者：75%(H30) → 74%(R01) → 79%(R02) → 72%(R03) → 75%(R04)

年次別に見ると1年次生83%（保護者79%）、2年次生78%（保護者76%）、3年次生78%（保護者70%）である。修誠会（PTA）の補助もあり、スクールカウンセラーには年間22回、月2回の割合で来ていただいている。希望者は誰でも相談できるようにしている。教職員は27「生徒から悩みや不安の相談を受けた時、充分時間を取って対応している」では100%である。生徒の「悩みや不安（心配なこと）があるとき相談できる先生がいる」が70%台であり、全体的な数値が上昇し、相談しやすい環境に改善されているが、教職員とは受け取り方に差があるようである。コロナ禍の不安な社会状況が続いており、相談しやすい体制づくりに万全を期したい。

③ 質問項目 生徒9・教職員32「社会や地域に貢献する活動に、積極的に参加している」については、生徒の肯定的な数値が今年度も上がり、教職員と生徒の間に顕著な開きがあった。

生徒：38%(H30) → 37%(R01) → 32%(R02) → 35%(R03) → 32%(R04)

教職員：81%(H30) → 81%(R01) → 90%(R02) → 82%(R03) → 84%(R04)

昨年度は中止となった雪灯籠製作は、本年度は参加予定である。また、夏休み期間であったにもかかわらず川西町の水害でのボランティア活動に参加した生徒がいたことは、その主体性が評価できる。しかし、年数回の活動では「積極的に参加している」とは言えないと判断したとも思われる。コロナ禍で外部との接触はできるだけ避けてきたこともあり、低い数値も仕方ないと思われる。生徒は学習・部活動などで時間に追われ、なかなか活動に参加できない状況である。そのような多忙な時間の中でも、係活動を快く引き受け、ボランティア活動をする生徒達が高い評価を得ている。

3. <進路指導>

① 「進路決定のための情報が提供されている」の質問 11 は、

生徒：93%(H30) → 92%(R01) → 97%(R02) → 94%(R03) → 95%(R04)

保護者：74%(H30) → 75%(R01) → 78%(R02) → 74%(R03) → 74%(R04)

生徒には「情報提供がなされている」という高い評価を得ているが、保護者の受け止め方にはやや開きがある。保護者質問 12「進路講演会や進路相談が適切に行われている」では、全体で81%の方が適切であると回答している。情報提供は生徒を介してプリント等で保護者にも伝えられるようになっているが、「さくら連絡網」の利用など更なる工夫が必要である。

② 「進路相談が適切に行われている」の質問 12・教職員 23 は、

生徒：93%(H30) → 93%(R01) → 98%(R02) → 96%(R03) → 98%(R04)

保護者：85%(H30) → 80%(R01) → 79%(R02) → 77%(R03) → 81%(R04)

教職員：93%(H30) → 93%(R01) → 100%(R02) → 100%(R03) → 92%(R04)

生徒・保護者ともここ数年高い評価を得ている。朝会前や昼休みに時間を取り、生徒面談をしている教職員もいる。多忙な校務の中、進路課や各年次団の努力の跡が伺える。教職員の意

識としては、質問項目 23「生徒・保護者に対して入試制度の理解と進路達成のために必要な情報提供と適切な助言が行われている」については高い数値だった。これからも生徒と保護者の進路に関する相談要求は常に高いことを意識すべきである。

4. <教育環境>

質問項目 「災害・事故等の非常時の備えや行動について」の質問には、

22「学校で地震や火災などが起こった場合、どのような行動をとれば良いか具体的に知らされている」

生徒：96%(H30) → 97%(R01) → 97%(R02) → 96%(R03) → 99%(R04)

22「災害・事故などに迅速に対応し、非常時の備えに努めている」

保護者：88%(H30) → 87%(R01) → 90%(R02) → 88%(R03) → 91%(R04)

33「災害・事故・事件等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている」

教職員：90%(H30) → 95%(R01) → 95%(R02) → 91%(R03) → 97%(R04)

35「施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている」

教職員：98%(H30) → 100%(R01) → 100%(R02) → 97%(R03) → 97%(R04)

結果は非常に高い数値を示し、安全についての意識も高いといえる。生徒・保護者・教職員の危機管理意識は高いまま保っている。設備に関しては、Wi-Fi 環境も整えられ、一人一台端末・iPad・スマホなどが全教室で使えるようになった。自宅学習期間はリモートでの授業もできるように改善された。リモートでの顔の見える授業は安心するものである。生徒は上手に機器を使いこなしている。利用に関するモラル指導も必要である。

生徒 23・保護者 24 質問項目「さくら連絡網」の活用について

「役立っている」と回答した生徒は95%（保護者98%）で、年次別に見ると1年次生96%（保護者99%）、2年次生94%（保護者98%）、3年次生94%（保護者98%）である。教職員は出欠確認が簡略化され電話対応による業務が軽減された。緊急連絡だけでなく、年次・部活動からの配信など、様々な情報伝達に利用している。また、災害時における教職員の安否確認をシミュレーションし、万が一の事態に備えている。今年度もコロナ禍の影響で度々日程変更などがあり、その緊急連絡手段として重要な役割を果たした。Google Classroom 等も活用されている。

5 <教職員に対するアンケートについて>

高い数値の微動で大きな変化が見られない中で評価の低い項目は 質問項目 36「学校ホームページをよく閲覧する」は66%（76%(R03)）である。理解している内容について HP で見る必要性を感じないものと考えられる。質問項目 37「グループウェア、Google Classroom を活用している」は92%と高い数値である。情報共有を図る上では更に高い数値を期待したい。質問項目 教職員 34「施設・設備の拡充」71%（79%(R03)）については、南校舎・体育館は老朽化しており、窓の開閉・カーテンの開閉・雨漏り・タイルの剥がれなど、トラブルが発生している。昨年度回答にあった東校舎の2・3階フロアの雨漏りは予算がつき改修済みであるが、修理に関しては「県立高校再編整備基本計画」のこともあり、予算化はなかなか困難な状況である。毎月の安全点検を活かし、安全な学習環境の確保には日々努めている。